

キャンパスから

小樽商大
松家仁教授

今年6月、新型コロナウイルスの影響で経済的に苦しむ学生の支援策に活用してほしいと、小樽商科大に1500万円を寄付してくれた団体があります。本学の同窓会「緑丘会」です。寄付金は本学独自の給付型奨学金の財源に充てられ、困窮する学生299人に各3万円の奨学金が届けられました。緑丘会理事長の島崎憲明さん(74)は1969年卒、野村ホールディングス取締役監査委員長に話を聞きました。

— 緑丘会の活動内容を

コロナ禍の学生 同窓会が支援



緑丘会理事長の島崎憲明さん

教えてください。

「同窓生の親睦を図ると同時に、学生や大学に対する物心両面での支援を目的に活動しています。今年はコロナ禍で同窓会主催の卒業祝賀会が中止となり、各支部の新入会員歓迎会も開

催できませんでしたが、全国支部長会議や理事会などをウェブで実施して、組織の交流を深めました」
— 今回の寄付の経緯は。

「同窓会に、東京在住の若い同窓生から、コロナ禍で困窮している学生を支援できないかという提案がありました。大学からも資金支援の要請がありました。小樽商大は来年7月に創立110周年を迎えます。同窓会は周年記念事業のため、昨年からの募金に取り組んでおり、その一部を寄付に充てました。その後、改めて呼びかけたところ、さらに1500万円を超える寄付が集まりました。こちらは周年記念募金の一部として大学に寄付します」

— 本学の教員として私も感謝しています。

「今回の寄付は、緑丘会にとっても同窓意識、母校愛を確認する良い機会となりました。同窓生の皆さんに健全な寄付文化が根付いていくことが大事です。同窓会組織を通して育まれる連帯感を、昭和から平成そして令和へと引き継いでいきたいと願っています」